

2021年度日本分析化学会役員

会長（代表理事）	早下隆士				
副会長	石濱泰	大谷肇	原田明	鈴木真由美	藤浪眞紀
庶務担当理事	蠣崎悌司	西澤精一	山本博之	栗原誠	村松康司
	中山雅晴	黒田直敬	宮野博		
会計担当理事	松浦義和	小澤岳昌			
編集担当理事	長谷川健	東海林敦	津越敬寿		
常務理事	柿田和俊				
監事	田中俊逸	金澤秀子			

2021年度日本分析化学会支部役員

【北海道支部】（〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1 北海道教育大学札幌校化学教室）

支部長	蠣崎悌司								
副支部長	渡慶次学	坂入正敏							
参与	伊藤八十男	大谷友二	片岡正光	片山則昭	喜多村	齋藤健	神和夫		
高橋英明	那須淑子	橋村雅之	長谷部清	藤吉亮子	森田みゆき	横沢龍朗			
監事	伊藤慎二	宇都正幸							
庶務幹事	菅正彦	三原義広							
会計幹事	三浦篤志	石田晃彦							
幹事	青柳直樹	今枝佳祐	上野貢生	大木淳之	大津直史	岡征子	奥田弥生		
川口俊一	(木村)須田廣美	工藤英博	蔵崎正明	黒澤隆夫	齋藤徹	堺井亮介	佐々木隆浩		
佐藤久	真田哲也	鈴木智宏	高瀬舞	高橋徹	田中俊逸	谷博文	田原りり子		
千葉真弘	敦賀昇	徳光藍	富田恵一	中田耕	中谷暢丈	西村一彦	沼田ゆかり		
藤井翔	古崎睦	真栄城正寿	松井宏之	南尚嗣	村井毅	諸角達也	山田幸司		
吉田将己	吉村昭毅	若杉郷臣							

【東北支部】（〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学共生システム理工学類分析化学研究室）

支部長	西澤精一								
副支部長	遠藤昌敏	大江知行							
参与	秋葉健一	宇野原信行	大関邦夫	大類洋	尾形健明	荻野博	長哲郎		
小田嶋次勝	後藤順一	斎藤紘一	佐藤允美	南原利夫	星野仁	山崎慎一	四ツ柳隆夫		
監事	志村清仁	壹岐伸彦							
庶務幹事	高貝慶隆								
会計幹事	福山真央								
幹事	赤坂和昭	石川大太郎	伊藤徹二	伊野浩介	井上亮	岩田吉弘	大橋弘範		
小川信明	押手茂克	尾高雅文	上條利夫	唐島龍之介	菊地洋一	北川文彦	熊谷将吾		
佐藤勝彦	佐藤健二	佐藤雄介	猿渡英之	珠玖仁	鈴木敦子	田副博文	多田美香		
寺前紀夫	照井教文	仲川清隆	中川公一	中山健一	南雲誠心	糠塚いそし	西澤松彦		
野原幸男	橋本幹雄	火原彰秀	平野愛弓	平山和雄	福島美智子	福村裕史	藤村務		
末永智一	松村洋寿	眞野成康	盛田伸一	和久井喜人	渡辺壺	渡辺健一	渡辺忠一		

【関東支部】（〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1 上智大学理工学部分析化学研究室内）

支部長	山本博之								
次期支部長	津越敬寿								
副支部長	四宮一総	平山直紀	安田純子						
参与	梅澤喜夫	大橋弘三郎	岡田哲男	小熊幸一	金澤秀子	楠文代	合志陽一		
澤田清	渋谷雅美	菅原正雄	杉谷嘉則	高田芳矩	高村喜代子	田中龍彦	角田欣一		
中込和哉	中村洋	二瓶好正	丹羽修	早下隆士	平井昭司	藤浪眞紀	保母敏行		
前田瑞夫	宮村一夫	望月直樹	矢野良子	山崎素直	山根兵				

お知らせ

監事	鈴木 康志	本田 俊哉											
常任幹事	会田 秀樹	石川 隆一	稲川 有徳	岩崎 雄介	植田 郁生	上野 祐子	梅林 泰宏						
	梅村 知也	江坂 文孝	大塚 克弘	岡村 浩之	上村 真生	齋藤 伸吾	坂元 秀之						
	佐藤 香枝	敷野 修	東海林 敦	菅沼 こと	菅原 一晴	鈴木彌生子	谷合 哲行						
	豊田 太郎	並木 健二	野呂 純二	林 英男	蛭田 勇樹	高橋あかね	谷合 哲行						
	吉田 達成					山口 央	吉岡 拓哉						
支部幹事	青木 寛	伊藤 彰英	勝又 啓一	加藤 健	亀田 直弘	土戸 優志	富田 峻介						
	中村 圭介	福原 学	馬渡 和真	南 豪	村田 英明	森岡 和大							

【中部支部】 (〒460-0011 名古屋市中区大須1-35-18 一光大須ビル7F (公財)中部科学技術センター内)

支部長	栗原 誠												
次期支部長	長谷川 浩												
副支部長	内村 智博	北川 慎也											
顧問	板谷 芳京	上田 一正	上田 穰一	太田 清久	北川 邦行	酒井 忠雄	佐々木与志実						
	田口 茂	柘植 新	津田 孝雄	寺田喜久雄	永長 幸雄	中村 俊夫	早川 和一						
	原 稔	平出 正孝	舟橋 重信	本浄 高治	三輪 智夫	村田 旭	山寺 秀雄						
参与	一ノ木 進	井村 久則	宇野 文二	大谷 肇	小谷 明	山田 真吉	竹内 豊英						
	田中 智一	遠田 浩司	中田 隆二	波多 宣子	服部 敏明	小泉 貞之	藤本 忠蔵						
	湯地 昭夫					樋上 照男							
監事	石田 康行	金子 聡											
庶務幹事	加藤 亮	眞塩麻彩実											
会計幹事	村上 貴哉	安井 孝志											
常任幹事	飯國 良規	太田 一徳	金 継業	佐澤 和人	高橋 透	立石 一希	手嶋 紀雄						
	長谷川 浩	湯川 博	リムリーワ 知之										
幹事	伊藤 雅章	太田 鑑	大橋 芳明	小川 数馬	奥山 修司	甲斐 穂高	加賀谷重浩						
	香川 信之	勝又 英之	加藤 仁志	菅野 憲	儀賀 義勝	北川 均	木全 良典						
	後反 克典	坂江 広基	妹尾 健吾	高橋 史樹	巽 広輔	北出 和久	丹羽 敏之						
	丹羽 啓誌	古川 真衣	松宮 弘明	御子柴正明	南谷 臣昭	轟木堅一郎	山下 智富						
	吉田 佳宏					村上 貴哉							

【近畿支部】 (〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 (一財)大阪科学技術センター内)

支部長	村松 康司												
副支部長	森田 成昭	安川 智之											
庶務幹事	北隅 優希	末吉 健志											
会計幹事	糟野 潤	小池 亮											
参与	荒川 隆一	池田 重良	池田 篤治	池田 昌彦	小川禎一郎	尾崎 幸洋	垣内 隆						
	加納 健司	木原 壯林	木村 優	紀本 岳志	日下 讓	小島 次雄	佐伯 正夫						
	佐藤 昌憲	澁谷 康彦	田中 稔	谷口 一雄	千熊 正彦	寺部 茂	中原 武利						
	萩中 淳	藤田 芳一	藤原 英明	増田 嘉孝	松下 隆之	八尾 俊男	脇阪 達司						
	渡辺 巖	渡會 仁											
常任幹事	石切山一彦	岩月 聡史	大城 敬人	岡本 行広	北山 紗織	久保 拓也	鈴木 雅登						
	諏訪 雅頼	高原 晃里	田中 靖	向井 浩	山口 英一	山本佐知雄	吉田 朋子						
幹事	青山 佳弘	浅川 大地	飯田 琢也	石濱 泰	磯尾賢太郎	伊藤 滋之	岩井 貴弘						
	岩本 仁志	上田 啓太	宇田 亮子	遠藤 達郎	大塚 利行	奥田 浩子	小堤 和彦						
	小山 宗孝	門 晋平	河合 潤	川上奈津子	川崎 英也	河原 直樹	木村 敦臣						
	久保田直哉	久保埜公二	倉内 奈美	桑本 恵子	小菅 俊二	小林 典裕	坂本 英文						
	佐々木健次	佐々木隆之	作花 哲夫	椎木 弘	下赤 卓史	小林 典裕	許 岩						
	白井 理	杉原 崇康	杉山 雅人	鈴江 崇彦	鈴木 茂生	鈴木 哲仁	宗林 由樹						
	高木 達也	高野祥太郎	高橋 弘樹	竹田さほり	田中 章夫	田邊 一郎	茶山 健二						
	塚越 一彦	塚原 聡	塚本 効司	辻 幸一	角井 伸次	壺井 基裕	天満 敬						
	土井 光暢	床波 志保	鳥羽真由子	豊田 岐聡	永井 秀典	中口 讓	中島 陽一						
	中原 佳夫	並川 敬	中山 茂吉	西 直哉	西尾 友志	野田 達夫	萩森 政頼						
	橋田紳乃介	長谷川 健	張野 宏也	東 昇	久本 秀明	藤居 義和	藤森 啓一						
	藤原 学	布施 泰朗	細矢 憲	堀田 弘樹	堀山志朱代	本間 秀和	秀志						
	松尾 修司	松本 明弘	丸尾 雅啓	三木功次郎	三戸彩絵子	宮崎 哲男	村上 正裕						
	森内 隆代	森澤 勇介	矢嶋 撰子	安井 裕之	山垣 亮	山口 敬子	村上 雅博						
	吉田 裕美	脇田 慎一	渡邊 誠也										

お知らせ

【中国四国支部】 (〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院先進理工系科学研究科 (基礎化学プログラム) 分析化学研究室内)

支 部 長	中山 雅晴														
次期支部長	朝日 剛														
副支部長	藤原 薫														
支部参与	池田 早苗	伊藤 一明	今井 嘉彦	岩知道 正	奥村 稔	木下 光夫	熊丸 尚宏								
善木 道雄	田頭 昭二	竹味 弘勝	中野 惠文	林 康久	平田 静子	廣川 健	藤原 照文								
北條 正司	真鍋 敬	宮田 晴夫	本仲 純子	本水 昌二	森田 秀芳	山崎 恒博									
支部監事	金田 隆	若林 茂夫													
庶務幹事	浅野 比	小崎 大輔	管原 庄吾	水口 仁志											
会計幹事	竹田 一彦	西本 潤													
常任幹事	一色 健司	石坂 昌司	泉 雅典	今井 昭二	上田 忠治	上田 真史	越智 一志								
紙谷 浩之	北出 哲朗	北山 宏三	小園 修治	座古 保	高柳 俊夫	田所 大典	田中 秀治								
谷崎 達也	谷本 典之	名郷 洋信	西 博行	早川慎二郎	原 哲也	村上 良子	森本 稔								
藪谷 智規	横山 崇	吉田 和広	吉村 友宏	和田 修治											
支部幹事	浅岡 聡	安達 健太	井上 裕文	牛島 淳憲	小野 浩	片岡 洋行	苅部 甚一								
川村 邦男	小松原恒生	島崎 洋次	竹内 政樹	竹永 史典	武安 伸幸	谷村 俊史	永阪 文惣								
西脇 芳典	樋口 浩一	藤井 健太	藤原 勇	瀧脇 雄介	寶來佐和子	松原 弘樹	森 勝伸								
門木 秀幸	山下 浩	山本 剛	山本 孝	吉岡 徹	和田 光弘										

【九州支部】 (〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 熊本大学大学院先端科学研究部)

支 部 長	井原 敏博														
次期支部長	富安 卓滋														
副支部長	田中 充	高橋 政孝													
参 与	飯盛喜代春	石黒 慎一	今坂藤太郎	今任 稔彦	岩崎 正武	大森 保	鎌田 薩男								
喜納 兼勇	黒木 広明	合屋周次郎	財津 潔	城 昭典	下田 満哉	高館 明	谷口 功								
田端 正明	出口 俊雄	中島憲一郎	中村 博	増田 義人	松本 清	山口 政俊	山田 淳								
脇田 久伸															
監 査	黒田 直敬	栗原 龍													
庶務幹事	水城 圭司														
会計幹事	北村 裕介														
常任幹事	石川 洋哉	稲田 幹	大島 達也	大庭 義史	川上 健次	栗崎 敏	高橋 幸奈								
西田 正志	浜瀬 健司	原田 雅章	松田 直樹	松森 信明	吉留 俊史										
幹 事	新垣 雄光	安藤 功	井倉 則之	池上 天	石岡 寿雄	石田 雄士	井上 高教								
内原 博	宇都宮 聡	梅木 辰也	王子田彰夫	大渡 啓介	大平 慎一	岡上 吉広	尾本 憲昭								
恩田 健	加地 範匡	片山 佳樹	加藤 祐子	金房 純代	椛島 力	椛島 正美	上畑桂太郎								
河済 博文	川畑 明	神崎 亮	岸川 直哉	木下 将和	呉 行正	児玉谷 仁	財津 慎一								
笹木 圭子	佐藤 博	佐藤しのぶ	佐藤 正雄	佐野 洋一	澤津橋徹哉	塩路 幸生	清水 陽一								
白土 英樹	末田 慎二	宗 伸明	高橋 章	高橋 浩司	高椋 利幸	竹中 繁織	竹原 公								
田中 明	天日 美薫	戸田 敬	富永 昌人	中島 常憲	中園 学	中武 貞文	中野 幸二								
中村 沙織	新留 康郎	能田 均	能登 征美	野間 誠司	馬場 由成	巴山 忠	原口 浩一								
原田 明	肥後 盛秀	藤井 清永	前田 明広	増田 寿伸	真瀬田幹生	又吉 直子	松井 利郎								
松野 康二	松本 篤彦	藤井 康浩	満尾 良弘	満塩 勝	三宅 孝彰	村田 正治	森 健								
安田みどり	藪下 彰啓	山口 敏男	山下 将一	横山さゆり	横山 拓史	吉田 亨次	吉田 祐一								
吉田 秀幸	吉村 和久														

2020年「分析化学」論文賞

多数の掲載論文の中から厳正なる審査の結果、標記論文賞が下記のとおり決まりました。受賞論文の概要は本号***ページをご覧ください。

著者：稲川有徳・上原伸夫

題名：『RGB-スペクトル変換法によるスマートフォン画像を利用した比色分析法の開発』

〔「分析化学」掲載ページ：第69巻第12号、693-706ページ〕

第36回分析化学における不確かさ研修プログラム
—受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会

測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきました。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるよう演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・“楽しく簡単に解かり易く”不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする。

ことを特徴としています。講師が一方向的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

期日 7月1日(木)・2日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町駅」芝浦口(東口)から徒歩約13分又は都営浅草線・都営三田線「三田駅」A4(JR田町駅方面)出口から徒歩約15分〕

アクセス https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者

- ・不確かさの計算方法を初歩から学びたい方
- ・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日(9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1(JIS K 0211:2013分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられる

様々な確率分布について)

9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
 10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因を考察するグループ演習)
 11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)
- 第2日(9.30~16.30)
12. 初日のおさらい
 13. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)
 14. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
 15. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
 16. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
 17. 演習：間違い探し
 18. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
 19. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
 20. まとめ

募集定員 20名(定員に達し次第、締め切ります)。

申込締切 6月24日(木)

受講料 会員63,800円(日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員)、会員外74,800円

※昼食、テキスト代を含みます。消費税は含んでいません。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことを受講証明書を主催団体から発行します。

申込・支払方法

以下のいずれかから申し込んでください。

1. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力の上、E-mailに添付してお申し込みください。また、同ホームページの「セミナー申込フォーム」からのお申込みも受け付けています。なお、電話での申込は受け付けません。
2. 日本分析化学会ホームページ(<https://www.jsac.jp/>)の「行事及び学会の事業」→「分析化学会の事業」→「講習会、セミナー」ページの「分析化学における不確かさ研修プログラム」にある「受講申込書」をダウンロードし、以下の項目をご記入の上、E-mailに添付してお申し込みください。(1)セミナー名(第36回分析化学における不確かさ研修プログラム)、(2)受講者氏名、(3)ふりがな、(4)年齢、(5)勤務先、(6)勤務先住所(郵便番号、所在地、所属、電話・FAX番号、E-mail)、(7)会員、会員外の別(日本分析化学会会員の方は会員番号を、JEMIC計測サークル会員の方は枠内に計測サークルと記入してください)、(8)~(12)は記入不要です。なお、電話での申込は受け付けません。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所(JEMIC)から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。① JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試

験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③定期刊行物の発送、購読期限及び会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

申込・問合せ先 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所 JEMIC 計測技術セミナー事務局 (担当:長谷川) [電話:03-3451-1205, E-mail:kosyukai-tky@jemic.go.jp]

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 (公社)日本分析化学会不確かさセミナー係 [電話:03-3490-3351, FAX:03-3490-3572, E-mail:koms@jsac.or.jp]

—ISO/IEC17043に基づく技能試験— 第23回 ダイオキシン類分析(ばいじん)技能試験 参加試験所の募集

主催 (公社)日本分析化学会

協賛 (一社)日本環境測定分析協会

ダイオキシン類の分析は排水、フライアッシュ、土壌など広範囲にわたっています。その分析には高度で複雑な前処理や測定技術の知識・経験が必要とされ、最新の分析技術・技能情報が求められます。分析の信頼性向上のためには試験結果を常に他所の試験結果と比較し、その差異を究明して対策をとっていく必要があります。ISO/IEC 17043に基づく試験所間比較・技能試験は、そのようなニーズを満たすものです。

本会技能試験委員会では、2000年度より試験所間比較・技能試験を実施しています。参加試験所には標準物質と同様に均質な試験用試料をお送りします。分析結果を本会に返送されますと、参加試験所の測定結果を統計的に比較し、皆様の試験所の測定結果を全試験所と比較して評価し、報告書をお届けします。本試験に参加することにより、試験所のバイアスを把握でき、試験所の測定傾向や異状をいち早くキャッチでき、内部精度管理ではできない分析の信頼性向上を図ることができます。当技能試験では均質なばいじん試料を配布し、GCカラム条件などの分析技術情報なども報告書に掲載しますのでご利用いただけます。ISO/IEC 17025 (JIS Q 17025)による試験所認定を受審される場合は、このような試験所間比較・技能試験を受けていることが必須条件の一つになります。奮ってご参加ください。

日程 受験申込締切 : 7月16日(金)

技能試験用試料の配付: 7月27日(火) 発送予定

分析結果の報告締切 : 10月15日(金) 必着厳守

中間報告書の発行送付: 11月19日(金) 予定

最終報告書の発行送付: 12月24日(金) 予定

対象事業所 ダイオキシン類分析を業務とするすべての試験所
目的 各社分析値の正確さの確認を通して分析技能の維持向上を図り、分析試験所認定へ向けての試験機関の技術レベルを確認するため。

分析試料 焼却炉ばいじん

結果報告の内容 参加試験所に対して、ISO/IEC 17043に規定する統計的手法による集計結果とその試験所のzスコアを報告します。試験所名は記号で表示されます。したがって、自社の試験結果が全体のどこに位置するかを当事者のみを知ることができます。なお、本会が貴試験所提出データ及び試験結果情報を第三者に公開することはありません。最終報告書等に参加試験所名の一覧は掲載しません。ただし、最終報告書の内容は、他機関の要求に応じて、提供又は掲載することがあります。本会技能試験委員会が実施する当技能試験はISO/IEC 17043に従うものであり、試験所認定を受ける際

にその旨評価されることが、試験所認定機関{(公財)日本適合性認定協会}との間で合意されています。

参加料(本体価格) 日本分析化学会団体会員50,000円、協賛学協会会員60,000円、会員外75,000円(いずれも消費税別)。※会社、事業所単位での技能試験のため、本会団体会員または協賛学会に所属していない場合は、会員外扱いとなります(本会個人会員名義での申込については、会員扱いはいたしません)。

募集受付試験所数 200 試験所

参加申込方法 日本分析化学会ホームページ (<http://www.jsac.jp>)→上方のMENU又は下方のクイックリンク「日本分析化学会の行事及び事業」→技能試験→「第23回ダイオキシン類分析技能試験参加申込」の申込用Excelファイルに必要事項をご記入のうえ、ホームページ上のここをクリック(申込サイト)を通じてお申し込みください。(1)試験所名(参加証に記載する試験所名称にも使用しますので必要な場合は部署まで記載)(2)連絡先(氏名、所属、所在地、郵便番号、電話・FAX番号、E-mail)、(3)団体会員・会員外の別(団体会員番号を必ず記入)(4)参加料金額を記入。

送金方法 参加申込をいただきますと、受領通知とともに請求書を送りますので、8月31日までに指定口座に参加料をお振り込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、参加料の返金はいたしませんので予めご了承ください。

問合せ 上記の申込ができない場合や他のお問い合わせは下記へご連絡ください。

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 (公社)日本分析化学会技能試験事務局 [電話:03-3490-3352, FAX:03-3490-3572, E-mail:pro.test@jsac.or.jp]

第360回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

協賛 (公社)日本分析化学会、(公社)日本薬学会、(公社)日本化学会

後援 (公社)日本農芸化学会

LC及びLC/MSにおける分析メソッドの開発には、目的を達成するための様々なアプローチがあり、分析条件の変更、検出器の選定など、検討材料が多数あります。選定及び決定には経験に依存する事が多くあります。本例会では、各分野での経験を踏まえ、効率的なメソッド開発のヒントとなる情報を、各講師よりご講演いただきます。

期日 6月24日(木) 13.00~17.00

場所 Zoom リモート例会

講演主題 LC及びLC/MSにおける分析メソッド開発へのヒント

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)

(ジーエルサイエンス㈱) 中村和雄
(LC分析士初段取得予定)

1. メソッド開発にも役立つ逆相固定相の種類の違いによる分離特性(13.05~13.50)

(㈱クロマニックテクノロジーズ) 長江徳和
(LC分析士二段)

2. 頑健な分析法を効率的に開発! AQBdソフトウェアを用いた分析法開発(13.50~14.25)

(日本ウォーターズ㈱) 朝日優介
(LC分析士初段, LC/MS分析士初段)

3. 御問合せ事例から見るメソッド開発へのヒント(14.25~15.00)

(ジーエルサイエンス㈱) 鈴木幸治
(LC分析士四段, LC/MS分析士四段)

お知らせ

休憩 (15.00~15.15)

- 最新の2次元LCメソッド開発法 (15.15~15.50)
(アジレント・テクノロジー(株) 熊谷浩樹
(LC分析士四段, LC/MS分析士二段)
- 分析メソッドの応用開発—高速化, 分取, 高感度化を例
に (15.50~16.25) (株島津製作所) 渡邊京子
(LC分析士四段)
- 内因性物質や高分子医薬品 (ADCやASO) の分析法確
立の事例紹介 (16.25~16.40)
(株東レリサーチセンター) 桜井 周
(LC分析士初段, LC/MS分析士二段)
- 総括「LC及びLC/MSにおける分析メソッド開発」
(16.40~17.15) (東京理科大学) 中村 洋
(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員1,000円, 協賛学会・後援学
会会員3,000円, その他4,000円, 学生1,000円。参加申込
締切後の受付はできませんので, ご了承ください。

情報交換会 講演終了後, 講師を交えて情報交換会を開催しま
す(会費1,000円)。締切後のご参加はできませんので, 参
加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 6月17日(木)

申込方法 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤
務先(電話番号), LC会員・協賛学会会員・その他の別及
び情報交換会参加の有無を明記の上, お申し込みください。参加
費の納入が確認できた方には, 6月18日以降に①例会サ
イト入場URLと②「一般視聴者用操作マニュアル」をお送
りします。また, 情報交換会参加費納入者には, ③情報交換
会サイト入場URLをお知らせいたします。

申込先 <https://forms.gle/6A5at2Q3nEBW48Nn8>

銀行送金先 りそな銀行 五反田支店(普通) 0802349 口座
名 シャ)ニホンブンセンキカガクカイ
(公益社団法人 日本分析化学会 液体クロマトグラフィー
研究懇談会)

問合せ先 (公社)日本分析化学会 LC研究懇談会〔世話人E-
mail: nakamura@gls.co.jp〕

第27回中国四国支部分析化学若手セミナー

主催 (公社)日本分析化学会中国四国支部

後援 (公社)日本分析化学会若手交流会

分析化学に関心をもつ学生, 若手研究者, 企業技術者の交
流・親睦を図るとともに, 研究者及び技術者の育成と研究の発
展, 地方企業との結び付きの強化を目指す。

期日 6月26日(土)

会場 オンライン会場 (Zoomウェビナーを予定)

本部住所 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1 高知大学
理工学部2号館225号室

本部代表者 小崎大輔(高知大学 理工学部 講師)

内容 依頼講演・企業セッション・一般発表など

依頼講演①: 「The Application of Raman Spectrometry in
Identifying Atmospheric and Marine Microplastics」(島根大
学生物資源科学部環境共生科学科) 長門 Edward 豪先生

依頼講演②: 「バイオメディカル分析法を指向した脂質二
分子膜界面のデザイン」(東京薬科大学薬学部医療薬物薬学科)
東海林敦先生

企業セッション①: 「歯科メーカーにおける分析化学の利用
について ~YAMAKIN(株)の取り組みを事例として~」
(YAMAKIN(株) 坂本猛様)

企業セッション②: 「分析の高感度化がもたらす超純水と超
純水装置の更なる進化」(ヴェオリア・ジェネッツ(株)エルガ・
ラボウォーター事業部) 黒木祥文様

※より詳細な予定など, 随時更新を予定しております。

定員 70名程度(定員を超える場合は申し込みを締め切らせ
ていただく場合があります)

参加申込締切 5月31日(日)

要旨提出締切 6月10日(日)

参加申込方法 必要事項(1.所属・職名または学年, 2.氏名
(ふりがな), 3.性別, 4.連絡先住所・電話番号・E-mail,
5.発表の有無(発表有の場合はその講演題目)を明記の上,
daisuke.2-10@kochi-u.ac.jp宛にお申し込みください。

参加費 一般:3,000円, 学生:2,000円

申込・問合せ 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1 高知
大学教育研究部 総合科学系複合領域科学部門 小崎大輔
[E-mail: daisuke.2-10@kochi-u.ac.jp]

2021年度第2回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部, 近畿分析技術研究懇
談会

期日 7月16日(金) 15.00~16.00

会場 大阪科学技術センター7階700号室 [大阪市西区靱本
町1-8-4, 電話:06-6443-5324, 交通:地下鉄四つ橋線
「本町」駅下車, 北へ徒歩約7分。うつぼ公園北詰]

講演

1. 分析化学と化学教育にご縁をいただいた40年 (15.00~
16.00) (大阪教育大学教育学部) 横井邦彦

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し, (1)氏名, (2)勤務先(所属),
(3)連絡先を記入の上, 下記申込先へFAXまたはE-mailに
てお申し込みください。なお, 参加証は発行いたしませんの
で, 当日は直接会場にお越しください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 (公社)日本
分析化学会近畿支部 [電話:06-6441-5531, FAX:06-
6443-6685, E-mail: mail@bunkin.org]

※新型コロナウイルスの影響により, 延期やオンライン開催等
に変更する可能性があります。変更などの詳細は, 近畿支部
ホームページ(<http://www.bunkin.org/>)にてご確認ください。

北陸地区講演会

主催 (公社)日本分析化学会中部支部

期日 7月16日(金) 13.30~16.30

開催形式 オンライン開催

プラットフォーム Cisco Webex Meetings (予定)

講演

1. 「イオン液体中の水及び金属イオンの相互作用とそれを
利用した金属イオン分析」

(静岡大学教育学部) 栗原 誠

2. 「ケージ状物質による分子包接と液液界面反応の制御」

(福井県立大学生物資源学部) 坂江広基

3. 「バイオセンシングに資する材料の開発—生体・食品分
析のための新たなツールの創出を目指して—」

(佐賀大学農学部) 宗 伸明

参加費 無料

意見交換会 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点か
ら, 意見交換会の開催は見送ります。

その他 講演会当日の接続方法については, 北陸地区の方には
幹事を通じて7月上旬頃にメールにてお知らせします。北
陸地区以外の方で聴講をご希望の方は, 下記担当までお問い
合わせください。なお, 事前に接続テストの実施を予定して
います。

申込・問合せ 〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1 福井
大学学術研究院工学系部門 内村智博 [電話:0776-27-

8610, E-mail : uchimura@matse.u-fukui.ac.jp

第 361 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

協賛 (公社)日本分析化学会, (公社)日本薬学会, (公社)日本化学会

後援 (公社)日本農芸化学会

アミノ酸・有機酸・糖・水溶性ポリマーなどの親水性化合物は、食品や医薬・化粧品を始めとする様々な分野で利用・研究されています。しかし、親水性化合物の分析においては、分離や保持の面で苦戦を強いられた経験がある方も多いのではないのでしょうか。本例会では、親水性化合物の分析法の開発や問題解決のヒントになるよう、最新の分析法についてご講演いただきます。

期日 7月21日(水) 13.00~17.00

開催場所 Zoom リモート例会

講演主題 親水性化合物の分析法最前線

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13.00~13.05)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC 分析士五段, LC/MS 分析士五段)

1. 親水性化合物分析の為のカラム選択 (13.05~13.35)

(日本ウォーターズ㈱) 島崎裕紀

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士二段)

2. 逆相カラムと HILIC カラムの親水性化合物分析における特性 (13.35~14.05)

(㈱クロマニックテクノロジーズ) 塚本友康

(LC 分析士初段)

3. 有機シリカハイブリッド系 HILIC カラムについて (14.05~14.35)

(㈱ワイエムシィ) 渡部 毅 (LC 分析士二段)

休憩 (14.35~15.00)

4. HILIC-QQQ-MS を用いた代謝産物分析 (15.00~15.30)

(アジレント・テクノロジー㈱) 澤田有司

(LC 分析士初段取得予定)

5. イオン対試薬を用いた親水性化合物の分析 (15.30~16.00)

((一財)化学物質評価研究機構) 坂牧 寛

(LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段)

6. アミノ酸及びアミノ酸代謝物の一斉分析法の事例紹介 (16.00~16.30)

(味の素㈱) 唐川幸聖

(LC 分析士初段)

7. 総括「親水性化合物の分析法最前線」(16.30~17.00)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC 分析士五段, LC/MS 分析士五段)

参加費 LC 研究懇談会会員 1,000 円, 協賛学会・後援学会会員 3,000 円, その他 4,000 円, 学生 1,000 円。参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します(会費 1,000 円)。締切後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 7月14日(水)

申込方法 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC 会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申込みください。参加費の納入が確認できた方には、7月16日以降に①例会サイト入場 URL と②「一般視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします。

申込先 <https://forms.gle/b19VTBNeeYCY4M8C6>

銀行送金先 りそな銀行 五反田支店(普通) 0802349 口座

名 シャ)ニホンブンセキカガクカイ

(公益社団法人 日本分析化学会 液体クロマトグラフィー研究懇談会)

問合せ先 (公社)日本分析化学会 LC 研究懇談会〔世話人 E-mail : nakamura@jsac.or.jp〕

第 9 回 Chem-Bio Joint Seminar 2021

主催 (公社)日本分析化学会バイオ分析研究懇談会

期日 8月7日(土) 9.30~17.30

形式 オンライン

内容 招待講演, パネルディスカッション, ポスターセッション

プログラム

コアセッション 1 (9.30~12.00)

“革新的な細胞培養実験のためのマイクロシステムの開発”

・講演 1:「イントロダクトリー (仮) (群馬大) 佐藤記一

・講演 2:「マイクロ流体デバイスを基盤とする培養システムとイメージング技術との融合 (仮) (東海大) 木村啓志

・講演 3:「リバース・バイオエンジニアリングによる生体再構成への挑戦 (仮) (京大) 亀井謙一郎

・講演 4:「三次元組織を作って使うバイオハイブリッド技術 (仮) (東大) 竹内昌治

・パネルディスカッション

休憩 (12.00~13.00)

コアセッション 2 (13.10~15.40)

“創薬研究の最前線と現実 (仮)”

・講演 1:「イントロダクトリー: 創薬の課題・核酸アプターを例に (仮) (東大) 吉本敬太郎

・講演 2:「天然物の合成生物学研究と医薬シーズ探索 (仮) (東北大) 浅井禎吾

・講演 3:「擬天然ペプチド薬剤を創る人工合成システム (仮) (東大) 後藤佑樹

・講演 4:「高分子材料の精密設計による核酸デリバリー (仮) (東大) 宮田完二郎

・パネルディスカッション

若手ポスターセッション (企画調整中) (15.50~)

閉会式 (17.00)

参加費 学生: 無料, 一般: 3,000 円

申込締切日 7月20日(火)

申込方法 下記 URL よりお申込みください。

<https://forms.gle/UFYxErB2HubPg6tp8>

問合せ先 〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻生命環境科学系 吉本敬太郎 [E-mail : keitaro@yoshimotolab.c.u-tokyo.ac.jp]

詳細は日本分析化学会バイオ分析研究懇談会 HP (只今準備中) にも掲載予定です。

——以下の各件は本会が共催・協賛・ 後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

熱測定オンライン討論会 2021

主催 日本熱測定学会
期日 6月17日(木)、7月8日(木)、8月5日(木)、8月
26日(木)、9月16日(木) 全5回
会場 オンライン会議システム
ホームページ
<https://www.netsu.org/2021onlinelecture/index.html>
連絡先 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮澤ビ
ル601 日本熱測定学会事務局内 熱測定オンライン討論会
2021 実行委員会〔電話：03-5821-7120, FAX：03-5821-
7439, E-mail：netsu@mbd.nifty.com〕

第39回高分子表面研究会基礎講座 「表面をつくる・みる・つかう」

主催 (公社)高分子学会高分子表面研究会
期日 6月28日(月)
会場 Webex Meetings によるオンライン開催
ホームページ <https://member.spsj.or.jp/event/index.php?id=273>
連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船3-10-9 新富町ビル
6F (公社)高分子学会 第39回高分子表面研究会基礎講座
係〔電話：03-5540-3770, FAX：03-5540-3737〕

第10回環境放射能除染研究発表会

主催 (一社)環境放射能除染学会
期日 8月25日(水)・26日(木)
会場 とうほう・みんなの文化センター
ホームページ <http://khjosen.org/>
連絡先 〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前24-10-A-102
(一社)環境放射能除染学会〔FAX：029-886-9228, E-
mail：10th-conf@khjosen.org〕

第37回シクロデキストリンシンポジウム

主催 シクロデキストリン学会
期日 9月2日(木)・3日(金)
会場 大阪大学吹田キャンパス銀杏会館(状況によってオンラ
イン開催に変更する場合があります)
ホームページ <http://www.scdj.jp/>
連絡先 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 大阪大学大学
院工学研究科 応用化学専攻木田研究室 実行委員長 木田
敏之〔電話：06-6879-7920, FAX：06-6879-7923, E-
mail：cyclodextrin37@chem.eng.osaka-u.ac.jp〕

第42回超音波エレクトロニクスの基礎と 応用に関するシンポジウム

主催 超音波エレクトロニクス協会 USE シンポジウム運営
委員会
期日 10月25日(月)～27日(水)

会場 アクトシティ浜松コンgresセンター(現地開催を準備
しますが、Web開催または現地・Webハイブリッド開催の
可能性もあります)

ホームページ <https://use-jp.org>

連絡先 実行委員長〔E-mail：steering@use-jp.org〕

第70回ネットワークポリマー講演討論会

主催 合成樹脂工業協会
期日 11月8日(月)～10日(水)
会場 関西大学100周年記念会館
ホームページ <http://www.networkpolymer.jp/>
連絡先 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-10-4 丸石ビ
ルディング6F 合成樹脂工業協会 ネットワークポリマー
講演討論会事務局〔電話：03-5298-8003, FAX：03-5298-
8004, E-mail：networkpolymer@jtpia.jp〕

第37回近赤外フォーラム

主催 近赤外研究会
期日 11月17日(水)～19日(金)
会場 オンライン開催
ホームページ <https://jcnirs.org/>
連絡先 〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12 (国研)
農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門内 近赤外研
究会事務局〔電話：029-838-8023, FAX：029-838-7996,
E-mail：office@jcnirs.org〕

第32回クロマトグラフィー科学会議

主催 クロマトグラフィー科学会
期日 11月25日(木)～27日(土)
会場 東京理科大学野田キャンパス7号館
ホームページ <https://scs32c.jimdofree.com>
連絡先 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学
薬学部 臨床分析科学研究室内 第32回クロマトグラ
フィー科学会議(SCS32)事務局 東 達也、楠瀬翔一〔電
話：04-7121-3660, E-mail：scs32noda@gmail.com〕

「分析化学」 年間特集「省」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画しており、2022年度は「省」をテーマとすることと致しました。

世界の総人口は現在約78億人となり、人々が健康で豊かに暮らしていくためには、限られた資源を有効に活用することが不可欠です。また、誰もが高度な科学技術や医療技術の恩恵を受けられるよう工夫することは、持続可能な開発の理念に資する、転じて我が国の近現代史を顧みますと、少ない資源の元での効率の良い技術開発はお家芸と表現しても過言ではなく、分析化学の分野においても、新しい分析方法・技術の開発や改良を通して、複雑化・多様化した現代社会に大きく貢献しているところです。

こうした背景から、本特集では「省」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「省」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の4・5号及びホームページをご参照ください。
特集論文申込締切：2021年7月30日（金）（第1期）
特集論文原稿締切：2021年8月13日（金）（第1期）

「分析化学討論会」特集の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号を企画しており、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載してきました。2021年度の分析化学討論会特集号では、「活力ある分析化学～持続と発展～」をテーマとしました。分析化学討論会にて発表を予定されている方々の論文を募集いたします。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すことを目的とし、2015年に国連サミットにおいて、持続可能な開発目標SDGs 17が掲げられました。一方で、現在、我々は新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックに直面しています。また、本年は東日本大震災発生後10年にあたりますが、廃炉問題も含め、復興も道半ばの状況です。分析化学は、測る技術であると共に、数多くのデータの中から、原因を究明すると共に、問題解決の糸口を見出すことが可能な学問であり、課題克服に果たす役割は大きいものと期待されます。

このような現状に鑑み、人類の持続と発展に貢献することを目指した、分析化学における新しい方法論の提案や応用例を取り扱った論文を広く募集いたします。分析化学討論会にて発表を予定されている方々、ならびに本特集号のテーマに関する研究をなさされている方々からのご投稿をお待ちしております。

特集論文の申込締切：2021年7月9日（金）

特集論文の原稿締切：2021年8月13日（金）

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・

機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。ただ、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事の際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋
(共催)

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。
(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

2. 価格：次の計算式に従って算出された値（円）。

$$20000 + 2500 \times p + 25 \times p \times (n - 50)$$
 但し、 p は掲載論文の印刷ページ数で、奇数の場合には 1 を加えた値、 n は別刷希望部数。
3. 消費税 10 % がかかりますので、ご了承ください。

「分析化学産業技術論文賞」のご案内

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2019 年に「分析化学産業技術論文賞」を設けました。独創的であり、実用的な分析技術や測定機器、並びに科学技術や産業の発展に貢献すると認められる論文を選定し、表彰することといたしました。企業技術を周知する場としても活用して頂けるかと思っておりますので、奮ってご投稿ください。また、国内における科学技術の国際競争力強化のため産学連携が推進されています。その研究成果を企業の視点からご投稿ください。若手研究者のご投稿もお待ちしております。詳細は「分析化学」誌ホームページをご参照ください。

表彰対象論文：1) 独創的であり、実用的な分析技術や機器、並びに科学技術や産業の発展に貢献すると認められた論文。
 2) 企業あるいは公設試験研究機関に所属する者が筆頭著者あるいは連絡代表者である論文。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌ではこれまで著者の方々に別刷の購入をお願いしてまいりましたが、2020 年 4 月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdf ファイルを進呈することにいたしました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式 (P : 印刷ページ数) (単位 : 円)

会員の場合 : $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が 14 ページ以上は一律 80,000 円)

会員外の場合 : $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が 14 ページ以上は一律 90,000 円)

* 上記に消費税がかかります。

「Analytical Sciences」別刷頒布価格のお知らせ

「Analytical Sciences」掲載の投稿論文の別刷頒布価格は下記のとおりです。

1. 頒布部数：50 部を最小単位とし、以降 50 部単位で頒布します。